

## ■ 知ってて、知らない

仕事が終わって一息入れた所で、食事を出された。「わが家はエコを考えて割り箸はだしません」と塗り箸を出された。見ると螺鈿が入っている豪華な箸である。「これは若狭の箸ですよ」若狭と言えあの若狭湾のあるところですかと聞くと、「そうです。アメリカ大統領になられたオバマさんと同じ名前でお有名な小浜で作られています。小浜市はオバマさんにこの箸を送ったとか」若狭塗りは聞いたことはあるが、よくわからないので調べることにした。百聞は一見に如かずと、実演コーナーを探したら春日部のデパートで開催しているとの情報で出かけた。

「若狭塗りは主に貝殻を使います。この工法を螺鈿といいます。この青く光っているのが青貝で卵殻といい貝殻の内側を使います。こちらはアワビの貝殻です。それに堆朱という塗りもしています。これは漆を60~100回程塗り重ね、それを砥石で削ります。」と実演して見せてくれた。箸の素を削り出すと、思わず「マーブル」だと叫んだ、衝撃である。ランダムに削り出された箸は左右対象である、職人技である。「もっていきな！100回塗り重ねてあるので菜箸に使えるぞ」と(株)マツ勤の伊藤五郎氏、若狭塗りには何ぞ什碗がないのですかと聞くと、「小浜の人間は社交がへたでね、それと殿様から門外不出とおふれがあったからと聞いている」調べて見ると、殿様は酒井忠勝(徳川家光は酒井忠勝を特に信任し、「我が右手は讃岐(酒井忠勝)、我が左手は伊豆(松平信綱)」と述べたという。弟に酒井忠吉がおり、その娘が忠臣蔵で有名な吉良上野介の母である。

小浜城主となった「1634年」この塗り物を、若狭塗りと銘々したとある。此の品はあまりの豪華絢爛なため質実剛健を旨とした江戸時代は、一部の公家や武家だけが調度品として使用し、庶民は箸だけを使用した。昨年大河ドラマに出てくる皇女和宮が徳川家に降嫁の時の調度品は、全て若狭塗りであったそう。



(株)マツ勤の伊藤五郎氏

## ■ メイド・イン・カッシーナ展

2009年4月24日[金]-6月7日[日]

森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52F)

開館時間: 月・水・日・祝 10:00-20:00/

木・土・祝前日は21:00まで

特別期間: 4月29日[水]-5月6日[水] 10:00-21:00

※最終入館はそれぞれ閉館30分前まで

アート? 家具? made in Cassina (メイド・イン・カッシーナ)

株式会社カッシーナ・イクスシーは、4月24日(金) - 6月7日(日) までの間、森アーツセンターギャラリーにて、家具ブランドとしては初めての大規模な展覧会 "made in Cassina" 展(メイド・イン・カッシーナ展)を開催いたします。

本展は、300年以上の歴史を持つモダンデザインのリーディングブランド Cassina (カッシーナ) に受け継がれてきた豊かな創造力によるものづくり〈La qualita del fare〉の哲学をご覧ください。展覧会です。

ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライト、フィリップ・スタルクなど著名建築家・デザイナーとの出会い、その親密で幸福な物語と、デザイン史に果たしてきた数々の業績を、本邦初公開品を含む100点以上のチェア、テーブル、ソファ、解体したプロダクトや製品化以前のプロトタイプなどを通してご紹介します。本展では写真・図面・映像などふんだんに盛り込み、カッシーナの家具を実際に体感するコーナーも設けます。カッシーナの家具を日常生活で使うことによる満足感はこのブランドだけが持つ限りない魅力から得られる特別なものです。

ますます高度に情報化が進んだ現代に於いて、カッシーナのその確固とした哲学〈La qualita del fare〉をご紹介する『メイド・イン・カッシーナ』展は、一層重要な問いかけとなり、皆さまの記憶に残ることでしょう。



In the middle of the fifties: a small supply of chairs transported on the top of a 1100 Fiat car © Archivio Storico Cassina



WINK - Toshiyuki Kita Collezione Cassina 1980 © Gabriele Basilico



699 - Gio Ponti PILOTTA - Rodolfo Dordoni Collezione Cassina © Nicola Zocchi



© Cesare CHIMENTI

## ■ 途中下車

20数年前に購入したマンションのリフォームを頼まれた。クローゼットの折れ扉の把手が何度かの取り換えでばらばらである。施主さまは同じ形状が欲しいとの希望。金物のカタログを覗いても見つからない。法人会員のスガツネ工業のショールームを訪ねた。受付のお嬢様は親切に対応してくれて、胸にバッチを付けるのも手伝ってくれた。ご希望の品は2階と5階にございますのでご自由にみてください。5階から見ることにした。この階は輸入品の把手だけが陳列されていて、把手はこんなに高価なのかと思わず呟いた。造作家具などの善し悪しは把手や、つまみにも左右させるので、金額などあまり気にしないで選んでいて、見積りが高いと、もっとなんとかしろ！と言っていたが製作所には可哀想なことをした。気に入ったイタリア製のスケルトンの把手を見つけた。そばに電話があり「ご用の方は内線にどうぞ」の文字。係の人が飛んできてその場で決済し、持ち帰ることができた。(JIPAT会員割引がないのが残念でしたが)さて4階に移動しよう。ここには私が初めて見るクリエーションパネルなどというものが展示されていて、これらは植物や布、紙、金属などを挟んだ高性能樹脂パネルである。曲げ加工も出来、パネルサイズは最大で1210×2430で、厚みも1.5mm~24mmまで9種類もある。メーカーは民間航空機内部のインテリア用機材メーカーで、アメリカLumicor(ルミコール)社で、ボーイング社に特別に納入している信頼出来る会社である。が、植物を生きたまま加工し挟むことができますが、経年変化で枯れ葉になるのでそれだけは注意してほしいと、販売助成部の井上氏。フロアーを移動したところに、キャストが展示してあり、絨毯に跡の残らない品はあるのかと問うと、残念ながらそのようなものはありませんと。注意すべきは

問うと、残念ながらそのようなものはありませんと。注意すべきはキャストの内側がギザギザで歯車になっていて、その歯車に軸を差し込みストッパーにするスタイルのキャストは、その歯車に絨毯の毛がからみ付き、動かなくなりますので絨毯ではなく、カーペットにしてほしいと言われ、今まで気がつかなかったことにショールームに来た甲斐があった。3階は扉や引き出しの金具展示場で、見ているだけでいろいろなアイデアが生まれてくる。例えば最近顧客に言われることは耐震についての事で、引戸にして欲しいと言われ、限られたスペースで奥行きを取りたくない時など、引戸にするとレール幅が気になり、扉のかまちを薄くするのだが、背丈が高いと扉が狂ってしまうことがある。そんな場合、扉に見えるが開くと引戸という金具(以前からあったが)を使うことで奥行きは解消できる。新しい金物は天板や支輪の工夫で隠すことが容易になった。各フロアーのガイドを添付しますので、アイデアが枯れたら出向かれる事をお勧めします。



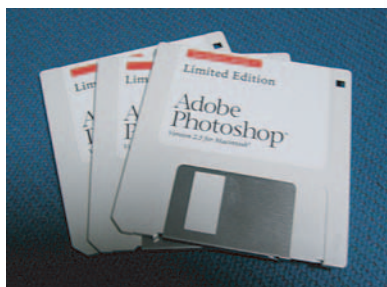
クリエーションパネル  
自然素材やフアブリックや紙、金属などの素材を高性能樹脂に挟んだインテリア用機材メーカーで、ボーイング社に特別に納入している信頼出来る会社である。が、植物を生きたまま加工し挟むことができますが、経年変化で枯れ葉になるのでそれだけは注意してほしいと、販売助成部の井上氏。フロアーを移動したところに、キャストが展示してあり、絨毯に跡の残らない品はあるのかと問うと、残念ながらそのようなものはありませんと。注意すべきは

6F	テクノフィールド系製品 (産業機器用機械部品)
5F	輸入つまみ・ハンドル
4F	アーキテリア系製品 (裝飾パネル・家具金物)
3F	モデルルーム (住空間・商業空間・ オフィス空間)
2F	アーキテリア系製品 (建築金物・家具金物)
1F	アーキテリア系製品 (Zwici・建築金物)

## ■ Macの話

MacのOSが変わったので銀座のアップルストアに出かけた。3階にシアターがあり、大型スクリーンを使いデモが行われている。私が定番につかっているAdobe Photoshopの新バージョンのCS4が、新しいMacOS10.5.6で使えるかどうかを知りたかった。答えはNoである。マシーンがPowerMacG5 又はインテル搭載でないと使えないことがわかった。これまでMacには高級車数台分をつぎ込んだが、またまた数十万かかる。そのときはくやしい思いをするが、使いこなすうち良かったと思うようになる。これもCEOスティーブ・ジョブズのマジックに私どもが引かかっている。Macを使い始めたのは1989年だった。マシーンはLC-IIでOSは漢字tork6.5でインストールはフロッピーデスクでインストールした。ソフトもフロッピーでAdobe Photoshopはまだ英語版だった。プリントしてもジャギーどころかドットがはっきり見えていた。ある年幕張でMacWORLD Expoがあり駆けつけた。オープンで参加者および関係者全員が拍手をしている。なにごとかと訪ねると、社員にも知らされていない新製品が、初めて皆の前に公開されたのだった。この秘密主義は現在も続いていて、デザイン制作部門は場所さえ秘密だそう。以前マスコミに漏れたことがあり犯人探しが一大事だったとか。

現在は数種のそれらしき情報を流しそれがマスコミにもれると、どのセクションから流出したかわかるようになってきているようだ。なぜそれほど神経質になるのかは、どうやら現在のアメリカが抱える株主優先主義の彼らが利益を極端に重視するため、経営陣は短期利益を要求されるので、新製品がいつ発表されるか事前にわかると、株価に影響がでてしまう。Macは制作途中でも突然デザインが変更になるので、安定株価を維持するためには秘密主義がいい。話が横道にそれた。OSが漢字tork7.5からCDに変わってくる。そこでOSをインストールするため外付けCDを購入してSCSI(スカジー)で繋いだ。スティーブ・ジョブ氏がアップルに復帰した翌年、あのスケルトンの奇抜な、iMacが登場する。そこにはSCSIもなければフロッピードライブもなく、全くあたらしいUSBが登場するのである。同時期アップルの合言葉はThink Different(異なった考えをしよう)。これがMacファンを喜びさせた。そしてあの黒のPower Mac G3が登場した。持ち運ぶには少々重かったがカッコよかった。現在でも使っている、それというのも、その時の保存方法はMOであり、ZIPだった。過去のデータが必要な時は現在のマシーンでは開けないのである。「古くなった技術をそぎ落とし旧来のユーザーは不便を被るが、しかし古い鎊を取ることで未来の快適さが増す。」これがジョブズの率いるアップルの信念なので従うしかない。ウィンドウズではデスクトップも、ノートパソコンも、そしてタブレットPC、スマートフォンに至るまで、搭載OSは異なっても基本的には1つのインターフェースのコンセプトに基づいて作られている。これはマシーンを変えても戸惑うことはない。つまりユーザーを操作の共通性を軸にした囲い込みなのかもしれない。Macは、ユーザー側から見ればスティーブ・ジョブズが渦の中心で全てを巻き込んでいて、プロダクト側からすると勢いよく回るコマのごとく、力の弱いものは振り飛ばされて地面に叩きつけられるのである。



PowerBookG3

## ■ 編集後記

NL62号掲載のIPEC 2008 アワード受賞者でスペースデザイン賞を獲得された、ナカタケ株式会社様の写真が違っており、関係各位様にはご迷惑をおかけしました、改めて書面を借りて謝罪いたします。今後このような事の無いよう対策いたします。

情報委員会ニュースレター担当 井上常雄